新聞月曜休刊　價一ヶ月80圓　一部賣(3圓)　磐城日日　昭和29年(1954) 3月12日　(金曜日) 第1070号

磐城日日

発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
編集兼発行人 長瀬壽一

綱領

◉紙面を廣く讀者の論説に解放し、社会の意志を擁護する
◉一旦掲載した問題に關しては如何なる反論をも拒まず、これを尊重する

磐城日日新聞社

出血多量で常磐市誕生
いきついた湯本
なお續く反對
運動のくすぶり？

既報＝湯本、磐崎の合併決議は三月十日午前九時より夫々町村議会協議会をひらき、湯本町は午前十時から役場會議室で矢吹町長以下全町議が出席議會を開会、磐崎村の成行を静觀しつつその議決を待っていたが、一方磐崎村々議會の協議會も同刻に開かれたが、議会の空氣は編入反対の下湯長谷部落民（代表松本喜平氏）百二十五名が午前九時反対氣勢をあげ同村部落公民館に大舉勢揃いして内七十名近くが協議会々場になだれ込み、他は役場周邊に〃編入反對〃の反旗をかかげ大田原村長、越田和村会議長に反對陳情書を手交するなど理事者側はとの陳情を巡って異論百出議会の空氣はとうした不穏の氣勢に押されて午前中は審議に運べず一時混乱したが、との報に湯本側に待期していた有賀地方事務所主事が馳けつけ説得に努めるなどの一幕もあり午後再会、大田原村長は席上〃結局は投票による決定に基き、その方向を定めたい〃と協議会の意向を反對部落民に訴へ午後二時二十分注目の決が、二十五名の村議によって投票された結果、賛成十四反対十、無効一によって同二時五十分遂に湯本編入を決議した。

との報に接した湯本側も即刻、四議案を提出

▼議案第一號　町村の廢置分合處分申請について（三月三十日から磐崎村を廢しその区域を湯本町に編入する）

▼議案才二號　町村の廢置分合に伴う財産處分を定める件

▼議案第三號　町の名稱を變更する條例（三月三十日から湯本町の名稱を常磐町と改める件）

▼議案第四号　町村の廢置分合について（三月卅一日から常磐町を廢し、その区域に常磐市を置くものとして縣知事申請の件）

以上、四案件を原案通り二十四対一で可決、三時五十分磐崎村合併を決議した。

これにより磐崎村の一部反対もあり憂慮されていた常磐市の誕生も磐城市と共に歩調を揃え新發足することになったが、決議後湯本町議、磐崎村議一同が湯本町役場会議室に合流新市計画書の作成に着手した。その基本方として

將來彈力性のある強固な財政基盤の確立、周辺部を先にして中心部に及ぶ都市計画を樹立農林地帯に於ける産業の振興、各種工場の誘致、溫泉街の發展、觀光客の誘致を圖る。

等が掲げられ、市役所は財政余裕を待ち新築するがそれ迄湯本町役場を当て支所は磐崎、長倉事務連絡所はおい〳〵廢止する意向である。

○……しかし合併は決議されたものの合併後の雲行は非常に険悪で磐崎村議二十五名中十名が常磐炭礦磐崎鑛支部南区分会長の吉田村議を筆頭に反對投票をなし、本部副組合長の西山村議の賛成派と激しく対立しているのでの餘波は下湯長谷部落民の動行とともに反対運動は磐崎村一部農民のみに止らず、常磐炭鑛労組の分裂をも換起するのではないかと今後の成行に相当世間の眼は注がれている

○……合併を決議された湯下長谷部落民は更に氣勢をあげ部落公会堂に參集〃こんな馬鹿な事はない〃と非常な昂奮につつまれ地方事務所、縣側に絶対反対運動を敢く迄も續けて行くと語ってをり反對運動本部の大平幾平氏（四六）のもとに集った部落民約千二百五十二名の署名人も行動を共にして頑張ると、湯本合併の不滿をぶちまけている

今日の主張

鹿島三部落問題に就て
〃政治的解決を排撃せよ〃

比佐凡風

鹿島三部落問題は只單なる三部落住民九十六世帯の問題に止まらず縣總務部、縣議会の問題と大きく發展しようとしている

これは住民九十六世帯の生活興亡ではなく磐城市の興亡に連なるものであることを忘却して考察することの出來ない重大な問題なのである

恐らく運動に挺身している青年諸子は問題がそこまで發展していることは知り得ぬ處であろう

我々が考えねばならぬことは最も考慮せねばならぬ三部落住民九十六世帯の福祉増進を離れて政治家の政争の具、官僚の点數かせぎの具に供され、それらの政争、官僚政治の弊が小名浜町の起債、磐城市の進展に大きな暗影を投げている事實である

しかし今当面して我々が考慮しなければならぬ問題は湯本町に編入を希望してこれが促進に運動を續けている人々の福祉をより増進するには如何にすべきかと言うことである

〃最大多数の最大幸福〃これこそ民主々義ルールの根本義であるとするならば、所謂三部落住民の地域的特殊性を勘案し住民の眞の意志が何處にあるか！

これを合理的に考察するならば必ずや解決の途は見出されることと確信する

勿論、鹿島村のように小さな村の中に長年の歴史を持ち、更に小名濱町、湯本町があれほどの合併誘致運動を衝突させればそこに当然感情のもつれが存在することは否定し得ない

しかしながら住民百年の幸福を念願するならば、一時の感情に走って悔を千載に残すが如き愚挙は斷じて避けねばなるまい

この問題の解決はあく迄も住民の意志によって爲すべきであり、これを政争の具に供し、ましてや官僚、政治家の喰いものにするが如きは人道上からも政治信義からも斷々乎として排撃さるべきであり、政治家、官僚はまた絶對に愼むべき行爲である

我々が爲すべきことは三部落九十六世帯の住民に對し、磐城市、常磐市、何れに編入され、何れの市民となることがより幸福であるかを判斷せしめる資料を提供することである

改めて小名浜、湯本兩町から嚴密なる資料を提供し、懇談を重ね、然る後に住民の意志の最も大なる側に自己を市民とせしめるよう援けるべきであって、これを無視し、いたずらの政治的解決を圖らんとすることは問題を一層困難ならしめる以上に住民の意志を無視した否冒瀆した非民主的な行爲である

要は合理的な住民の意志を明確にすることであり他の一切のものは全べて除去されることにあると確信する

執行部案を否決
（労組水素）春季労斗に燃える

日本水素労仂組合（組合長坂倉祐氏）の春季賃金要求の大綱を決める中央委員会は九日午後〇時三十分から組合事務所で開かれたが八時間に亘る激論の末執行委員会提出案が二十六対五で否決されると云う組合創立以來の事態が出態し、執行委員会は急委員会を開き修正案を作製、三十八對三で午後八時四十分修正案を決定、十六日の臨時大会に臨み、春季労働攻勢を展開する事になった

日本水素労組の執行部案が中央委員会で否決されたと云う事は組合内の労働者意識が非常に向上した事を示めす証左として從來の御用組合から脱却した今後の組合運動が注目されている

福島丸の竣工式
廿九日三千噸岸壁に擧行

さきに竣工進水した縣立水産高等學校練習船福島丸（二二〇噸）…船長山口祐一郎氏…の完工祝賀式は三月二十九日地元小名浜町の協讃で小名浜港三千噸岸壁に水産高校生以下地元関係者が多数列席、盛大に行われる

今回進水した同船には最新式レダー装置（イギリス・ベッカー會社製）がそなえられてあり、更に方向探知機は日本でもメーカー會社として有數な光電社製と海上電氣KKの漁群探知機なども装備されるなど最も優秀な練習船として水産高校生の期待を集めて生徒達の遠洋漁業の實習に役立たせることになっている。

天氣豫報 12

（本日）北風で雨か雪が残りますが、遅くなって北西の風に変り次第に晴れてくる（海上）見通し悪くしけ氣味で今日、明晩から氣節風が强まり風波が出て來るので漁船は注意を要します

平市署で優
良署員表彰

平市署では九日午前十時から同署会議室に一、二月中に於ける犯罪検擧の優良警官と民間協力者の表彰式を行い次の諸氏をそれ〴〵表彰した

（刑事課）熊谷節夫巡査部長、益山幸七、大石正阿部信義、眞野正太郎

▼警ら隊　相樂薫、星肇館内幸雄

▼警備課　遠藤正利、若松利夫、谷春松

▼少年係　橋本弘子

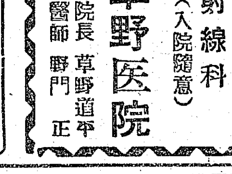
（民間協力者）小齋祐、鈴木敬司、阿部傳六、古澤忠、岡部富彌の五氏

魚菜市況 11

（小名浜中央青果市場）卵八〜八、五〇ねぎ四五〜八〇さといも四五〜七一うど二二〇人蔘五〇〜五五馬鈴薯三五〜七六玉な五〇〜五五きりいも二〇〇〜二五〇さつま八〇〜八五牛蒡一三五〜二三五ほうれん草三五〜五五丸大根七〜一〇水ば一三（一束）

常磐名産 みりん干

一般外科
内科
性病科
肛門科
放射線科
（入院随意）
草野医院
院長 草野道平
醫師 野門 正



チケット歡迎

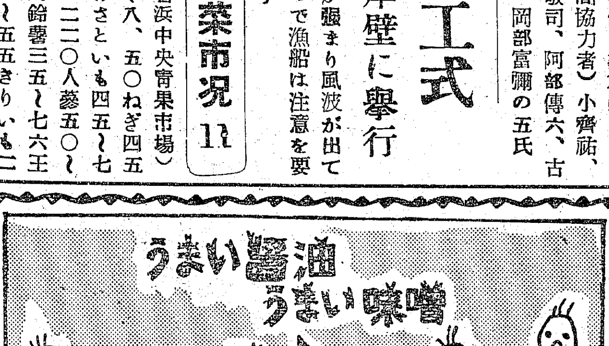
入學進級卒業用品

ランドセル皮製品550円
學帽120円より600圓
学生服セーラー服各種入荷
ギヤバ・ナイロン学生服揃
学生手提錠付270円より
運動靴ゾーリ袋洋傘辨当鞄
春セーター婦人子供新入荷
パイロット万年筆250圓
ノート・サンイ帳アルバム
化粧品柳屋メヌマ ジユジユ・ウテナ 80円
カネボウ春毛糸1900円
ちどりフトン綿

新入學の御祝には御子様の一生の思出になります最上のでランドセルを總牛皮製一九五〇円

經費をかけずに良い品安く

皆様の店
平マーケット
小名浜第二小学校前 電二七



ホシ友醤油株式會社 社長 星 友太郎

世界的名車 キヤプトン オートバイ

━國際價格の値下斷行━

350CC	VBI	=	¥135.000
350CC	RBH	=	〃165.000
400CC	R L	=	〃150.000
500CC	R k	=	〃185.000
500CC	RTF	=	〃205.000
600CC	RTS	=	〃215.000

▶但し價格は運賃なしの貨渡し◀

浜通り代理店
二階堂輪業株式会社
石城郡内郷町綴 電話（平）1878番

どこへ行く鹿島三部落

磐城市の前途に暗影

住民の意志よりも政争の具

一時は立消えになつたかと思われた、鹿島村合併の因縁、三澤、上矢田、松久須根三部落の湯本町に對する分割編入問題は既報の通り三町一村合併決議々会の開催寸前である九日午前九時小名浜町役場に三部落住民約八十名が陳情を行い、時が時だけに異状なまでのセンセーションを惹起し、無理推し合併の前途とからみ、その解決は各界の注目を集めているが少しくこの問題を掘り下げてみよう

……比佐記……

數次の協議も徒労

解決は県議会に持込むか

小名浜町では九日三部落住民約八十名の陳情に接し立花町長、長瀬議長が縣地方課佐藤主事、地方事務所有賀次長の立会で要望書を受理、善処を約して會見を終つたが、町議会終了後直ちに秘密会を開き行政運營審議委員をも加えてとの問題を協議、更に十日午後一時から行政運營審議委員会を開いて協議を續けたが、何ら具体的な解決策は見出されず、結論として十七日より開催を予定される縣議会にとの問題を持ち出し、縣議会の審議にまつ事になる模樣である

立花町長は再三の鹿島三部落代表の要望に接し、行政運營審議委員会に諮つて即答を避けて慎重な態度でこれにのぞんで来たが、これに対し行政運營審議会の意向は九対六で合併決議を行つた時から依然そのままの對立を続けている模樣で、三部落の處置方法を巡る度に鋭い對立が見られ、今回も志賀行政運營委員長ら八氏は連名で意見書を町議会に提出、當時の村議会が村を絶体割る事なく全村一致の姿で合併を行うと云う所謂合併三原則の決議を盾に三部落分割には强硬な反対の態度を表明し、一部には若し小名浜町が三部落を分割して湯本町に編入するが如き決議をするならば全村を元通りに合併解消を要求すると洩らしており、住民の意志をのみ勘案して事を處置する事の困難さが存在している

〝住民の意志〟が不明確

一刻も早やく平和な部落え

この鹿島三部落問題の仲介案を出して湯本、小名浜兩町の政爭を妥協させた県總務部では小名浜町議會がとれを否決し、更に再々度の町議会で「慎重再検討し一時保留」としたまゝ何らの解決を爲さず今日に至つたため縣總務部は縣議会總務委員會、又湯本町との間に入つて非常に苦しい立場に追い込まれ、縣地方課佐藤主事は今回の小名浜地區合併促進指導に來浜し陰に陽にとの問題の解決即ち協定書の履行を、時には交換條件を出し、時には半恐喝的な言辭を弄してとれが解決をせまつた模樣で一部町会議員を憤慨させている

問題は三部落住民の多数意志によつて解決すれば最も簡單であるが、その多数意志を明白にするとは現段階では非常に困難となつている

住民投票が最も簡單であるが法的に住民投票は認められず、今日まで小名浜側、湯本側が数次に亘つて署名運動を行つた際の實例を見ると常にその時の運動の署名数が住民の過半数を示めしており全部落民がとぞつて一方に希望しておらず、また明確な信念の許に希望を明白にする住民が全体の半数以下であることも複雑さを一層深めている大きな原因となつている

この明確に旗色を表明する人々の対立は部外者の想像以上の深刻さを示めして心理的葛藤を繰り返えしていることも、同部落内の暗い毎日の生活の苦痛から一日も早く脱したいと云う希望もとの問題の早急な解決を要望する聲となつて表われていることも見逃せない

糸を引く県役人？

官僚政治の弊害を暴露

縣總務部はとの問題の解決はあくまでも協定書の履行を小名浜が行う以外にないと言うような見解をとつている模樣で、八島總務部長、白石地方課長、更に連らなる佐藤主事と所謂る縣廳舎の官僚閥の流が湯本町と連らなつて、これに對する小名浜町の二十八年度予算起債問題にも不親切を極めていると言うような聲も聞かれ、町財政の大部分を起債或いは補助に頼らねばならない小名浜のような地方自治体にとつて縣廳官僚の感情を無視することは困難であるが、自治体には自治体の自治性がある、にも拘らず縣廳の一役人如きに町政を云々される必要はないと憤激する町議も相當にあるが、財政問題を巡つて今後も鹿島三部落問題は微妙な糸のアヤがたぐられ、磐城市發展にも大きな暗影となる可能性が憂慮されている

既に佐藤主事は若し小名浜町が協定書を履行しないならば今回の合併問題にも大ききな暗影を與えると云うような意味の発言をしていると傳えられ、更に今回の鹿島三部落民に九日の町議會開催寸前に陳情を行わせたものも佐藤主事であると云う見方が强く、地方自治体の育成指導を行うべき縣地方課が逆に地方自治体を破壞するような言動をとつていることに對しては相當に批難の聲が聞かれている

汽笛

磐城大市建設へ

縣會議員 大井川正巳

只見電源開發に併行した常磐地區綜合開發の一環として縣政の重要施策は小名浜、湯本を中心とした鉱工港湾大都市の建設にある

二十九年度頭初予算に起債九四七〇万円を計上、一万トン岩壁の大修築、鮫川開發に十億円の必要性、工場誘致、地下資源開發など重点案件山積する石城の地元議員としてその實現に狂奔しておりますが、これが究極的大成解決の途は湯本、磐崎小名浜、江名、泉、渡邊地區一圓をもつての磐城大都市建設でなければならぬと確信する

新市名は讀み易く

一無學生

小名浜地區の新市名は磐城市と新聞に出た樣ですが磐城を代表する樣で悪くは申さぬが、もつと子供にも書きよい名前が見出せぬか、何を書くにもむつかしい字は一生の損だ子供にも書きよい名を付けて欲しいものだ、民主々義なら各町村より名前を募集して決めたらどうか。參考に浜にちなんだ名で大名浜市（オナハマシ）はどうか

應募者が減少

十日高校入試締切る

縣立高等学校の本年度入学願書受付は三月十日をもつて締切られたが縣下全校の應募者数は一六、九五五名に対し定員は一四、〇八〇名となり二、八七〇名がフルイにかけられるが昨年度と比して本年度は應募者が減少の一途を辿り進学する生徒の減少は社会世相を反映、実社会について家庭経済の一助に走つたことを端的に物語つている

地元小名高及び水産高校の狀態をきいてみると

◉水産高校＝製造科七五名（四五）漁業科三五名（四五）電機通信科（別科）二二名（三〇）と僅に製造科が定員七三五名上廻つているが、昨年の九二名からみると一七名の減、更に漁業科は十名の減で別科の電氣通信科に至つては定員を八名上廻つていたが本年は逆に定員に八名の減となつている。志願者は殆どが石城郡下を中心に勿来中学の十二名を筆頭として、磐中九名、錦中八名、小名浜一中六名、二中八名の他江名、泉、渡邊の各中学から十名が應募している

◉小名浜高校＝普通科男九一、女一〇五＝一九六（一五〇）商業科三六（四〇）被服科三三（五〇）で同校も普通科のみが四六名の増であるが昨年の志願者二一四名から見ると十八名減で殊に商業科の七三名が本年は三六名と半減している

五課が競演して

水素で演劇コンクール

日本水素工業の第六回各課對抗演劇コンクールは三月十四日正午から同工場講堂に於て五課が出場して行うことになつて

▽技工支部……「赤穂浪士」神崎与五郎の一幕 演出……小泉一

▽倉庫……「乞食の歌」演出……鈴木保

▽検査……「狸男」、演出……星野正平

▽合成……伊賀山昌三作「結婚申込」、演出……阿部一男

▽電機……小山内薫作「息子」、演出……西村幸代

日本水素の各課対抗演劇コンクールは従来八課位が出場の上競演されたが本年は中だるみの感が强よく、これを更に發民させることが好劇家から强く要望されている

なお審査員には会社側から三輪武氏、組合側から菅原書記長、部外から小名浜演劇研究会長岡永亮八郎氏他が当る

亡父北郷繁七儀葬送に際しましては御多忙中にも拘らず遠路わざ〳〵御会葬下され且つ御鄭重なる御與香を載き略儀ながらとりあえず紙上をもつて厚く御禮申し上げます

昭和二十九年三月十日

植田町大字金畑三五番地

喪主 北郷德七

外親戚一同

磐城通運株式会社

小名浜町船引場四三（駅前）

産婦人科 内科小児科 白鳥醫院

電話七三五番

醫師 白鳥隆二郎

醫師 白鳥悦

月拂で即時家が建ちます

○一年満期は半金拂込で即時着工 後の半金は月拂い……

○二年満期で四カ月目に着工 一日早く申込めば一日早く建ちます

殖産住宅（本社東京銀座）

西武住宅（本社東京池袋）

東北常磐地區專屬工事人

小名浜町下町一八 古港一九二

申込所 小野幸次郎

開場三周年記念

平けいりん

3月

13日（土） 14日（日） 15日（月）

20日（土） 21日（日） 22日（月）

發走10時 場外車券賣場 福島 郡山 若松 平

主催 平市

量も質も無敵！

☆藝術院賞に輝く☆

山の音

上原謙、山村聰、原節子

全女性に訴える此の一篇

この太陽 大会

10日～13日 同時上映

小名浜 キンヒ館